

建築研究所 ニュース



平成22年 6月28日

「蒸暑地域住宅シンポジウム in 宮古島」を開催します。

建築研究所では、世界人口の約1/3が暮らすアジアの蒸暑地域（多湿・高温地域）に適した住宅・建築物の省エネルギー技術の研究開発と普及を進めるため、「蒸暑地域住宅の研究/研修プログラム」（別紙参照）を実施しています。このたび、日本の蒸暑地域であり「環境モデル都市」でもある宮古島市において世界のCO₂排出量削減に貢献できる住まいづくりとそれを生かした地域の活性化に関するシンポジウムを開催します。蒸暑地域住宅の研究/研修プログラム推進委員会の委員であり、地域の環境や素材を生かした建築作品を数多く手がける隈研吾氏をむかえ、新しい時代における蒸暑地域の住宅建築のあり方を考えます。

1. 名称：蒸暑地域住宅シンポジウム in 宮古島
地域に住まう、地球に暮らす、住まいのデザインと技術
～本物の海／本物の空／本物の住まい～
2. 主催：独立行政法人 建築研究所／特定非営利活動法人 蒸暑地域住まいの研究会
3. 開催日時：平成22年8月27日（金）14時00分～17時00分（予定）
4. 開催場所：宮古島東急リゾート（沖縄県宮古島市下地字与那覇914）
5. 内容：挨拶 下地 敏彦 宮古島市長
河本 光明 内閣官房地域活性化統合事務局参事官
特別講演「蒸暑地域建築のデザインと技術（仮題）」
隈 研吾 東京大学大学院教授
講演「建築住宅分野における環境施策の課題（仮題）」
橋本 公博 国土交通省住宅局住宅生産課長
「建築研究所における蒸暑地域住宅研究の取り組み（仮題）」
伊藤 弘（独）建築研究所理事
「沖縄における住宅の変遷と現代住宅（仮題）」
金城 優 NPO 蒸暑地域住まいの研究会理事
「蒸暑地域の住宅と建築研究所の技術～かたあきの里とエコハウス～（仮題）」
岩田 司（独）建築研究所上席研究員
総括 村上 周三（独）建築研究所理事長
6. 定員：100人
7. 参加費：無料（ただし、事前登録が必要です。）

※事前登録はNPO 蒸暑地域住まいの研究会事務局まで

〒901-2114 沖縄県浦添市安波茶 1-32-13 太平インタービル tel.098-871-3122

※そのほか詳しくは建築研究所ホームページ（<http://www.kenken.go.jp/>）にも掲載しています。

（内容の問合せ先）

独立行政法人建築研究所
住宅・都市研究グループ長 五條 渉
電話 029-864-6750（直通）
E-mail gojo@kenken.go.jp

「蒸暑地域住宅の研究/研修プログラム」及び同推進委員会について

中国南部から、東南アジア、南アジアにかけてのアジアの蒸暑地域には、現在世界人口の 1/3 に当たる 20 億人以上の人々が暮らしている。これらの地域では今後ともさらなる人口増加が見込まれるとともに、そのエネルギー需要の急速な増大が懸念されている。

我が国には、これら地域と同じ蒸暑気候下にある沖縄地方があり、建築研究所ではこれまでに世界に先駆けて、蒸暑地域における住宅に関わる省エネルギー技術の開発を行ってきた。

こうした中、2008 年 5 月に総合科学技術会議がとりまとめた「科学技術外交の強化に向けて」においては、地球規模の課題解決に向けた開発途上国との科学技術協力の強化の一環として、多湿・蒸暑地域における住宅・建築物に関する環境技術の研究開発を行うとともに、その成果をアジア諸国等に普及させることが掲げられた。

そこで建築研究所は、蒸暑地域における住宅の省エネルギー技術等に関する一連の研究のさらなる推進を図るとともに、その成果をアジアをはじめとする蒸暑地域の開発途上国等への普及を図り、世界的課題である低炭素社会の構築に貢献するため、2009 年度より「蒸暑地域住宅の研究/研修プログラム」を推進することとした。

また当委員会を通じてこれら研究の推進を図るとともに、同プログラムをよりの確かつ効果的に推進するため、学識経験者、関係行政機関の代表者等からなる「蒸暑地域住宅の研究/研修プログラム推進委員会」を設置し、第一回委員会を 2009 年 4 月 23 日に東京において開催した。なお、今年度は 2010 年 8 月 27 日に宮古島市において第二回委員会を開催する予定である。

・ 委員

村上 周三	(独)建築研究所理事長 (委員長)
岩村 和夫	東京都市大学教授
隈 研吾	東京大学大学院教授
出口 敦	九州大学大学院教授
吉野 博	東北大学大学院教授
唐木 芳博	内閣府沖縄振興局参事官
金井 昭典	国土交通省住宅局建築指導課長
橋本 公博	国土交通省住宅局住宅生産課長
仲田 文昭	沖縄県土木建築部長
下地 敏彦	宮古島市長
中本 清	NPO 法人蒸暑地域住まいの研究会理事長
伊藤 弘	(独)建築研究所理事
澤地 孝男	(独)建築研究所グループ長
岩田 司	(独)建築研究所上席研究員

ところで蒸暑地域には発展途上国が多く、これまでの住宅関連の研究開発は、低所得者に対する住宅地開発に関するものが中心であった。また住宅の省エネルギー化

については、先進諸国で開発された高断熱、高気密技術の移転により一部において実施されてきた。すなわち建築研究所における蒸暑地域の住宅に関わる省エネルギー技術の開発は世界で初めての本格的な技術開発であり、その技術移転による普及活動は、我が国住宅産業のアジア住宅市場進出への大きなインセンティブとなりうる。

2009 年度は、「蒸暑地域住宅の研究/研修プログラム」において以下の事業を実施した。

- ・ JICA 地域別研修「建築環境技術」(2009 年 10 月 4 日～11 月 26 日)を実施し、インドネシア、サモア、ベトナムにおける住宅建築に関わる基礎情報(気候特性、住宅類型など)を収集した。
- ・ 建築研究所がこれまでに開発した蒸暑地域における住宅建設技術を基に、国土交通省地域住宅モデル普及促進事業による「かたあきの里」(生活体験施設・木造平屋 7 棟：写真 1)、環境省 21 世紀環境共生住宅モデル事業による「エコハウス」(市街地型 RC2 階建て 1 棟、集落型混構造平屋建て 1 棟)の設計、施工の指導を行った。
- ・ 「蒸暑地域住宅シンポジウム in 沖縄 建築研究所の推進する住まいづくりの最先端技術～住みよい地域、美しい地球を目指して～」を開催した(NPO 蒸暑地域すまいの研究会等と共催。2009 年 11 月 27 日国立劇場おきなわ・小劇場にて)。

2010 年度は、沖縄県、NPO 蒸暑地域すまいの研究会等と協力して、沖縄やアジアを中心とした蒸暑地域における住宅建築に関わる基礎情報を引き続き収集整理するとともに、沖縄地方における長寿命や省 CO₂ を目指した住宅建設のあり方についての研究を推進する予定である。



写真 1 伝統的住宅の良さを生かしながら、遮熱、通風等の最先端技術を導入し、現代生活にあわせた設備、プランを持つ「かたあきの里」の 1 棟

住宅・都市研究グループ上席研究員 岩田 司
Tel 029-864-6672
Email iwata@kenken.go.jp